

## ■S3 群 (脳・知能・人間)

**11 編 教育支援システム**

Educational Support System

(執筆者: 永岡慶三) [2010 年 月 受領]

## ■概要■

本編では教育支援システム, 更により広範囲の教育工学についての解説がなされている。教育支援システム (Educational Support System) は一つの術語としての定義をもつものではないが, 教育工学 (Educational Technology) は 1960 年代の頃から日本でも使われだした用語であり, 電子情報通信学会においても, 教育工学研究会 (当初は教育技術研究会) が誕生して以来, すでに 40 年以上の研究寄与があり, 重要な研究領域として現在に至っている。

教育工学は, ともすれば教育に対する情報通信技術の応用であり, あくまで側面からの技術の提供・支援であるというイメージをもたれやすい。事実, 当初は教育や学習の本質については, 教育事象の専門性に対する遠慮もあり, また人間が関わる教育の複雑な本質には踏み入らないことが無難とした向きもあった。しかし, 教育工学が教育・学習に対する有効な方法論を提供することを目的として研究開発を行ってきたことで, 必然的に教育・学習について真正な効果・効率を目指すのがゆえに, 結局, 教育・学習の本質を, 情緒的あるいはイデオロギーでなく, 科学的に論じることに貢献しているのが現状である。

本編の解説をみれば, 教育支援システムあるいは教育工学についての研究が, 社会的要請に応じて, いかに多様にまた本質的に展開されているかを知ることができる。

## 【本編の構成】

本編の構成は 4 章からなる。1 章において教育工学の歴史が述べられる。歴史の時間軸と対象領域の空間軸について展開され, 今後の研究指針を示唆する。2 章は, 学習と教授の理論である。心理学や認知科学から発生した学習と教授の理論が今や工学の枠組みの中で多面的に論じられていることを理解できる。3 章は, 教育設計・評価・分析である。e テスティングなど具体的な情報通信工学の活用と考え方が実例とともに示される。4 章は, 教育・学習支援システムである。(a) システムアーキテクチャ, (b) ドメイン, の二つの観点から論じられている。

## 【11 編 知識ベース委員会】

編主任: 永岡慶三 (早稲田大学)  
 編幹事: 柏原昭博 (電気通信大学)  
           植野真臣 (電気通信大学)  
           鈴木栄幸 (茨城大学)  
 執筆委員: 岡本敏雄 (電気通信大学)  
           加藤 浩 (放送大学)  
           中原 淳 (東京大学)  
           益川弘如 (静岡大学)  
           鈴木克明 (熊本大学)  
           林 雄介 (大阪大学)

森本康彦 (東京学芸大学)  
藤原康弘 (岩手県立大学)  
望月俊男 (専修大学)  
宮寺庸造 (東京学芸大学)  
竹内 章 (九州工業大学)  
小尻智子 (関西大学)  
松原行宏 (広島市立大学)  
緒方広明 (徳島大学)  
矢野米雄 (徳島大学)  
小西達裕 (静岡大学)  
平嶋 宗 (広島大学)  
長谷川忍 (北陸先端科学技術大学院大学)  
棟方哲弥 (独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所)